



自分で一歩ずつの積み重ねを大切に ～豊かな感性・ねばり強く考える力～



校内の花々も初夏の彩りへと移り変わり、爽やかな季節の訪れを感じる頃となりました。1年生は朝顔の種をまき、「早く大きくなあれ」と毎日水やりをしながら、芽が出て育つ様子を楽しみに見守っています。2年生はミニトマトやナスなどの夏野菜、3年生はホウセンカ、4年生はヘチマを育てています。学校の畑では玉ねぎやジャガイモが収穫の時期を迎え、校庭ではチョウの卵や幼虫を大切に観察する姿も見られます。生き物や植物と夢中で向き合う子供たちの表情からは、命の不思議さや大切さを感じ取りながら学んでいる様子が伝わってきます。こうした自然との関わりや体験も、本校が大切にしている学びの一つです。

本校では、市教委の推進を受け、幼児期の「遊び」を小学校の「教科学習」へとつなぐ「幼小一貫教育」に力を入れています。生活科や総合的な学習の時間を中心に、雑賀崎ならではの豊かな地域資源を生かした探究活動を進め、自主性や共に生きる心を育てています。こうした活動を通して、「自分が好き」「誰かの役に立ててうれしい」と感じられる自己肯定感や自己有用感を育み、子供たちが毎日ワクワクしながら学べる学校づくりを進めています。豊かな感性を磨き、失敗を恐れず粘り強く考える力を育てることで、「やってみよう」と挑戦する気持ちを大切にしていきたいと考えています。

学校での学びや経験は、種まきと同じです。すぐに結果が見えなくても、考え、話し合い、挑戦した時間は、子供たちの心の栄養となって少しずつ積み重なります。そして卒業する頃には、豊かな感性と、自分の夢に向かって一歩を踏み出せるたくましさにつながっていくものと信じています。

6月は校区探検や見学、体験活動など、地域の方々から生きた知恵を学ぶ機会が多くあります。プール掃除やプール開きも始まります。学校だからこそ出会える「本物」の体験を通して、子供たちがさらに大きく成長し、たくましく挑戦してくれることを期待しています。

(学校長 谷口 佳都司)

◎浪早ビーチでの稚魚放流体験と浪早崎散策 [5/25(月)]

